

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための
自己点検・評価報告書

令和3年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

第二十七条 地方公共団体の長は、当該地方公共団体が設置する幼保連携型認定こども園に関する事務のうち、幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定その他の当該地方公共団体の教育委員会の権限に属する事務と密接な関連を有するものとして当該地方公共団体の規則で定めるものの実施に当たっては、当該教育委員会の意見を聴かななければならない。

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかななければならない。

目 次

I はじめに	1
II 点検・評価について	2
III 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会自己点検及び評価	3
・5-1-1 スクラムによる園・学校・地域の教育力の向上	3
・5-1-2 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進	5
・5-2-1 御前崎を愛し知・徳・体の調和のとれた生き抜くための 資質・能力の育成	6
・5-2-3 安全で充実した教育環境の整備	10
IV 令和2年度教育委員会の活動	11
V 総合評価	13

I はじめに

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の基本目標「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」に基づき、毎年度発行している「スクラム御前崎」の中で、教育の基本目標と主要施策を明確に示すとともに、施策の実現に努めています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。）では、第26条によって、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすべく、「教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う」ことを義務付けています。

このことを受けて御前崎市牧之原市学校組合教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、市民への公表を行っています。

本報告書は令和2年度御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の活動及び「スクラム御前崎」で示した重点取組の実現のため点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から常葉大学教育学部教授の堀井啓幸氏にも外部評価をしていただき、ここに報告書として取りまとめました。

市民の感覚、視点を持って点検・評価を行うことは、今日の課題や今後の取組方針が明確になる点において、大変意義のあるものと思います。

今後も「郷土を愛し 未来を創る 人づくり」を基本目標として、園、学校、地域、行政がスクラムを組み、それぞれの施策を推進してまいる所存です。

令和3年3月

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会
教 育 長 河原崎 全

Ⅱ 点検・評価について

1. 趣 旨

御前崎市牧之原市学校組合教育委員会は、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、令和2年度「スクラム御前崎」に沿って、今年度における教育委員会の主要な施策・事業を対象として実施いたしました。このため、スクラム御前崎P1の「重点取組」として掲げた13の施策とそれに伴う事業について評価を行っています。

3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、令和2年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組みの方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元中学校長 杉浦 尚志 氏、元教育委員 増田 美恵子 氏、元園長 渡辺 和子 氏、民間企業代表 植田 浩行氏の御意見や、常葉大学教育学部教授 堀井 啓幸 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

4. 点検・評価の表し方

点検及び評価については、今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ実行できたかを「執行度」として0～100%で表しました。また、その事業自体の「妥当性」「効果性」「効率性」をそれぞれ、1「非常に低い」、2「低い」、3「どちらともいえない」、4「高い」、5「非常に高い」の5段階で表しました。「妥当性」とは、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」に掲げた目標達成のために、その事業自体がどれほど妥当かを評価しています。「効果性」とは、実際に事業を進めた結果、得た効果について評価しています。「効率性」とは、コスト面・人員面において費用対効果がどれほどかを評価しています。

新型コロナウイルス感染症により実施できなかった事業については、「－」で表しています。

Ⅲ 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会の自己点検及び評価

今回教育委員会の自己点検・評価について報告書をまとめるにあたり、教育委員会が行っている事業について自己点検・評価シートにまとめました。

今年度執行予定の事業を、今年度3月末までにどれだけ遂行できたかを「執行度」として0～100%で表しています。

◎点検・評価について	◎今後の方向について
○妥当性 5・・・非常に高い	①継続
〃 4・・・高い	②完了
〃 3・・・どちらともいえない	③拡大
〃 2・・・低い	④縮小
〃 1・・・非常に低い	⑤転換
○効果性・効率性も上記に準じて評価しています。	⑥中止

5-1-1 スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力の向上

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
スクラムスクール運営協議会 (学校教育課)	1-(3)	50%	事業の妥当性	5	浜岡中学校区30人、御前崎中学校区24人に委員を依頼した。年間6回予定していた協議会のうち、新型コロナウイルスの影響で、第1回を中止し、第3回から第5回は、学校で開催された今井昌彦教授の講演会に代替して実施した。今年度は、「早寝・早起き・朝ごはん」のうち、「早寝」に焦点を当て、「ネット依存、ゲーム障害」を市の子供たちの課題として取り組んだ。園・学校・保護者・地域の共通の課題意識を持つことができた。
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	
スクラムカレンダーの作成 (学校教育課)	-	50%	事業の妥当性	4	3ヶ月ごとに各小学校区ボランティアが作成し、全戸配付してきたが、新型コロナウイルスの影響で、教育計画が何度も変更になったため、作成したカレンダーと実際の教育計画にずれが生じた。また、感染予防対策を取りながら、ボランティアが会合を開くことができにくい状況が発生した小学校もあったため、年度途中にカレンダー作成を中止した小学校もあった。
			効果性	2	
			効率性(コスト)	2	
			効率性(人員)	3	
総合教育会議・移動教育委員会の実施 (教育総務課)	-	100%	事業の妥当性	4	総合教育会議を2回開催した。第1回は「令和2年度標準学力調査の結果等について」、今回の結果を分析・考察した報告、前年調査との比較による課題等を共有しながら、市長部局と教育委員会で意見交換をすることができた。第2回は、教育大綱の見直しを協議した。 移動教育委員会を1回開催した。幼稚園、こども園の職員と教育委員が話し合い、保育ニーズの多様化、保育士不足、家庭教育力の低下等の現状と課題を把握した。
			効果性	3	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	3	

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向									
防災教育の推進 (学校教育課)	1-(5)	50%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の妥当性	4	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	3	園から中学校まで統一した防災マニュアルを作成しており、年度ごと必要に応じて修正を加えながら市内で共通して取り組んでいる。防災教育については各小中学校へ、地区防災訓練については各地区に任せた形になっている。今年度はコロナの影響もあり、9月の総合防災訓練は次年度へ延期となったため実施できなかった。	④縮小	地域防災訓練への参加を各校で呼びかけ、児童生徒が参加できるようにする。授業や学級活動などで防災についての内容を取り入れるなどして、地区で活躍できる中学生(小学生)の育成を図る。
事業の妥当性	4													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	3													
キャリア教育の充実 (学校教育課)	1-(1)	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	CSディレクターによって平成30年度に両中学校のキャリア教育の体制が整った。職業講座の(今年度はコロナウイルスの影響で動画で)実施により、地元の様々な職業人に触れ、生徒の夢や希望を広げている。小学校にも様々な方たちがゲストティーチャーとして招かれ、その方たちの思いや願いに触れ、望ましい職業観の育成に繋がっている。	③拡大	職業体験や職業講座など開かれた教育課程を実現していくためにも、体験や講座の内容を工夫し、積極的に地域の方たちとかかわりを深める。
事業の妥当性	5													
効果性	4													
効率性(コスト)	4													
効率性(人員)	4													

5-1-2 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
情報モラル学習の推進 (学校教育課)	1-(5)	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	5	効率性(コスト)	3	効率性(人員)	5	<p>外部講師(浜松学院大学短期大学部長今井教授)を招集しての児童生徒・保護者に対する講演も行った。さらに、ネットパトロールを依頼している会社(NPO法人e-lunch)による講演は全校で行った。休業期間あけに行った、児童・生徒を対象にした生活・ネットアンケートの結果を受けて、教職員にも情報モラル学習の意識が高まっている。</p>	<p>スクラムスクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子供を守る活動を推進する取組を今後も実行する。ICT支援員の勤務日数の増加(2週間に1回から毎週支援へ)により効果を上げる。</p> <p>③拡大</p>
事業の妥当性	5												
効果性	5												
効率性(コスト)	3												
効率性(人員)	5												
家庭教育支援の推進 (学校教育課)	1-(3)	50%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	3	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	<p>スクラムスクール運営協議会で「早寝・早起き・朝ごはん」を推進してきたが、学校教育が家庭教育力の向上を図ることは非常に困難であり、事業目的と取組に無理が生じている。今年度は、「ゲーム障害・ネット依存」の問題を学校・保護者・地域の共通の問題として取り組んだ。今井昌彦教授の講演を実施できた学校では、保護者が危機感を持つよい機会となった。</p>	<p>コミュニティスクールの指定を学校単位に変更することにより、学校の課題を保護者や地域と共有しやすくする。また、PTA活動をスクラムスクール運営協議会とリンクさせ、家庭教育力の向上に主体性を持たせられるような体制を整備する。</p> <p>⑤転換</p>
事業の妥当性	3												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
スクラムグッドマナー運動の推進 (学校教育課・社会教育課)	1-(1)	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	5	効率性(人員)	4	<p>毎月10日に行われるスクラムグッドマナー運動は、各園・学校で工夫された挨拶運動が行われた。中学生が啓発ポスターの掲示を地元事業所へ依頼し、広報活動をした。中部電力社員の協力を得て、より活発になってきている。気持ちの良い挨拶が交わせる児童生徒を目指し、児童会や生徒会でも働きかけるように各校へ呼びかけていく。</p>	<p>子どもたちがより挨拶へ意欲的に取り組めるよう学校に働きかける。</p> <p>①継続</p>
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	5												
効率性(人員)	4												

5-2-1 御前崎を愛し知・徳・体の調和のとれた生き抜くための資質・能力の育成

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
市独自の学力調査の実施 (学校教育課)	2-(1)	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	7月に小学校2年生から5年生、中学校1年生・2年生を対象に学力調査及び質問紙調査を実施した。静岡大学教育学部村山功教授の力を借り、結果を分析し市全体・各学校・児童の課題を明らかにし、指導の改善に生かすことができた。また、保護者にも早い段階から学習状況について知らせることができ、家庭学習や生活習慣について見直す機会となっている。	①継続 子供たちの現状や御前崎市教育の今を客観的に知る上では重要なものであり、各学年の経年比較もよい資料となっている。来年度も今年度同様に実施し、平均正答率を各学年とも1%以上高くなるように支援する。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
全国体力運動能力・運動習慣等調査の分析と活用 (学校教育課)	1-(1)	-	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>-</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	-	効率性(コスト)	-	効率性(人員)	-	今年度は、国の決定により実施しなかったため、分析と活用には至らなかった。	①継続 学力と同時に子供たちの体力の状況等についても分析・活用し、心身ともに健全やかな成長の支援につなげる。
事業の妥当性	5												
効果性	-												
効率性(コスト)	-												
効率性(人員)	-												
スクラム研究会 (学校教育課)	2-(1)	75%	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	4	効率性(コスト)	4	効率性(人員)	4	今年度は、コロナウイルス感染症拡大に伴い、地域の教職員の授業参観は人数を限定して行った。授業後の研修会では、ZOOMを活用し、各校でも参加できる状況を設定し行った。新学習指導要領の実施に伴い、新たな授業観を養っていく上では重要な機会であった。	①継続 今年度から小学校で、来年度は中学校で新学習指導要領の全面実施となる。そのため、全職員が新学習指導要領の目指す教育観を共有する場を設けることが重要である。具体的には、今年度実施できなかった大学教授による師範授業及び講話を予定している。
事業の妥当性	5												
効果性	4												
効率性(コスト)	4												
効率性(人員)	4												
スクラムゼミナール (学校教育課)	2-(1) 3-(3)	-	<table border="1"> <tr> <td>事業の妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性(コスト)</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>効率性(人員)</td> <td>-</td> </tr> </table>	事業の妥当性	5	効果性	-	効率性(コスト)	-	効率性(人員)	-	今年度は、コロナウイルス感染症拡大に伴い、上智大学奈須教授から、授業内容及び年間授業計画に対するアドバイスを受けることが多くの学校ではできなかった。試行として、リモートによる指導が1回行われた。	①継続 年々、各校の奈須教授への依頼内容が変化し、各校の実態やニーズに合った研修の機会となっている。今年度は実施できなかった分も多いため、来年度以降、拡大していき、さらに各校の授業改善を進める。
事業の妥当性	5												
効果性	-												
効率性(コスト)	-												
効率性(人員)	-												

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向								
教職員対象各 研修会 (学校教育課)	2-(1)	90%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>5</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	5	<p>教職員の分掌等に応じた各種研修会を年間計画に位置付け、実施した。授業改善推進委員会では、新学習指導要領の実施に向けて、御前崎市内の児童生徒の良さや課題を分析し、各校の研修へ役立てた。ICT推進委員会では、来年度からスタートするGIGAスクール構想の実現に向けて、小中学校連携した研修を進めた。それぞれの立場の市内の教員が情報交換できる機会でもあり、共有された研修内容を各校で広め、深化させることで、「スクラム御前崎」の浸透が図られるように実施してきた。</p>	<p>①継続</p> <p>教員等育成指標に基づき、新学習指導要領の実施に向け、経験及び職務別に求められる資質能力の育成が図れるようさらに内容を充実させる。各種研修会実施における目標を明確にし、目標を達成するための手立てや達成状況を学校教育課内で共有する。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	4												
効率性 (人員)	5												
外国語指導助手(ALT)及び 英語活動指導員の配置 (学校教育課)	4-(3)	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>4</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	5	効率性 (コスト)	4	効率性 (人員)	4	<p>ALT1人を御中に昨年度より多い日数派遣し、外国語学習の充実を図った。日数が増えたことで生徒たちは生の英語に触れることができ、楽しく学習ができた。</p>	<p>④縮小</p> <p>浜中94.5日と御中144日の配置の不平等さを解消するため、浜中120日、御中121日とする。今年度と同じ人数で各校を効率よく回れるように計画的に配置する。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	5												
効率性 (コスト)	4												
効率性 (人員)	4												
学校のICT環境の向上 (教育総務課)	4-(4)	100%	<table border="1"> <tr> <td>事業の 妥当性</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>効果性</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>効率性 (コスト)</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>効率性 (人員)</td> <td>3</td> </tr> </table>	事業の 妥当性	5	効果性	4	効率性 (コスト)	3	効率性 (人員)	3	<p>文部科学省が提唱するGIGAスクール構想実現のため、校内ネットワーク整備工事と端末購入を行った。</p> <p>浜岡中学校をモデル校と位置付け、ICT機器の導入を実施した。</p> <p>利用については「GIGAスクール構想御前崎市3年計画」、「御前崎市ICT教育3年計画」を策定し、それに基づいてICT機器の使用を推進していく。</p>	<p>③拡大</p> <p>1人1台端末が配架され、浜岡中学校をモデルとしたICT機器利用実績により、各校の導入を進める。</p>
事業の 妥当性	5												
効果性	4												
効率性 (コスト)	3												
効率性 (人員)	3												

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向		
ICT支援員の配置 (学校教育課)	4-(3)	80%	事業の妥当性	5	ICT支援員の全校配置となつてから3年目となる。各校職員が担当するICT推進委員の重点目標として、「ICT機器活用に関する環境整備」「プログラミング教育実施」を掲げて取り組んだ。また、一人一台PC導入に向けて、全面的なバックアップを支援員が行ったため、目標が達成できている。	③拡大	GIGAスクール構想の一人一台PC導入に向けて、環境整備や校内研修、授業支援の充実を図っていく必要がある。専門家であるICT支援員の配置は必須となる。
			効果性	4			
			効率性(コスト)	3			
			効率性(人員)	3			
【再掲】 情報モラル学習の推進 (学校教育課)	1-(5)	90%	事業の妥当性	5	外部講師(浜松学院大学短期大学部長今井教授)を招集しての児童生徒・保護者に対する講演を5校(小学校4校、中学校1校)で行った。さらに、ネットパトロールを依頼している会社(NPO法人e-lunch)による講演は全校で行った。休業期間あけに行った、児童・生徒を対象にした生活・ネットアンケートの結果を受けて、教職員にも情報モラル学習の意識が高まっている。	③拡大	スクラムスクール運営協議会で取り組んでいる「ネット依存やゲーム障害」から子供を守る活動を推進する取組を今後も実行する。ICT支援員の勤務日数の増加(2週間に1回から毎週支援へ)により効果を上げる。
			効果性	5			
			効率性(コスト)	3			
			効率性(人員)	5			
エネルギー教育の推進 (学校教育課)	1-(2)	50%	事業の妥当性	4	小学校6年生が、浜岡原子力発電所の見学をし、原子力発電のしくみや安全対策の様子を中部電力職員から説明を受けた。また、12月からは一部の学校で、理科の授業で各発電のしくみを中電職員をゲストティーチャーに迎え学習した。コロナウイルス感染症拡大に伴い、計画通りに実施できなかったことがあった。	①継続	電源立地市の市民としてエネルギーについて自ら考え判断する力を身につけるためにも継続する。
			効果性	4			
			効率性(コスト)	3			
			効率性(人員)	3			
学校における読書活動の推進 (学校教育課)	1-(4)	90%	事業の妥当性	5	学校図書館司書1人が御中と浜岡東小を巡回した。学校図書館連絡会は新型コロナで年1回になってしまったが、昨年度「読書県しずおか」で優秀実践校に選ばれた浜岡北小を会場に行うことで図書館経営について学ぶ場となった。また、御前崎中学校の職員が「本つなぎ」の動画をまおまおで配信し、市立図書館とも協力して読書推進に役立てた。	①継続	学校図書館連絡会や掲示板などを使って読書推進に関する情報を交換できるようにする。
			効果性	5			
			効率性(コスト)	4			
			効率性(人員)	4			

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向
市立図書館と学校図書館との連携 (図書館・学校教育課)	1-(4)	90%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>「子どもたちが本と親しむまち御前崎」を目指して、学校図書館連絡会や各校との話し合いの場を通して、引き続き市立図書館との連携を図る。</p>
			効果性	4	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	5	
学習支援員等の配置 (学校教育課)	2-(1)	100%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>年々、通常学級における特別支援を要する生徒も増加傾向にあり、学習支援員の必要性が高まっている。各校の要望を聞き、より機能した活用になるような配置にする。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	5	
			効率性(人員)	5	
適応指導教室「サンルーム」 (学校教育課)	4-(1)	90%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>学校に通うことが難しい児童生徒の最後の砦として必要なため、学校との連携を密にし、不登校児童・生徒宅への家庭訪問等、アウトリーチも積極的に行う。</p>
			効果性	5	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	
いじめ問題対策連絡協議会 (学校教育課)	-	75%	事業の妥当性	5	<p>①継続</p> <p>いじめ対策専門委員会の委員の選出、依頼、委嘱・任命を行った。必要があるときには委員会が開催できるように準備できている。</p>
			効果性	4	
			効率性(コスト)	4	
			効率性(人員)	4	

5-2-3 安全で充実した教育環境の整備

事業	項目	執行度	点 検 ・ (評 価)		今後の方向		
安全安心な教育環境の向上 (教育総務課)	4-(4)	100%	事業の妥当性	5	使用率の高い特別教室のエアコン整備を行うことができた。 長寿命化計画に沿って、優先順位の高い御前崎中学校から改修を開始した。5小学校については設備改修の調査を実施した。	⑤転換	クラスの増減に応じた整備を行い、維持管理に努める。併せて長寿命化計画に沿って、各校の修繕を実施する。
			効果性	4			
			効率性(コスト)	5			
			効率性(人員)	4			
			【再掲】学校のICT環境の向上 (教育総務課)	4-(4)			
効果性	4						
効率性(コスト)	3						
効率性(人員)	3						

IV 令和2年度教育委員会の活動

(1) 御前崎市牧之原市学校組合教育委員会委員の名簿

(令和3年3月現在)

役職名	氏名	任期
委員	吉村 勝	平成31年1月17日～令和2年7月10日
委員	松林 義樹	令和2年7月11日～令和5年1月16日
委員	増田 克之	令和2年1月17日～令和6年1月16日
委員	原崎 志保	平成30年1月17日～令和4年1月16日
委員	下村 勝	平成29年1月17日～令和3年3月31日
教育長	河原崎 全	平成30年4月1日～令和3年3月31日

(2) 協議事項

教育委員会が管理・執行する事務

項目	件数	点 検
(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。	1	○御前崎市教育振興基本計画について審議した。
(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。	2	○出勤簿整理要領の一部改正について ○「御前崎市スクラムスクール運営協議会に関する規則」の一部改正について について審議した。
(3) 県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○令和3年度教職員人事異動について内申を行った。(うち、懲戒件数0)
(4) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	2	○令和3年度当初予算案(3月) について具申した。
(5) 第26条の規定による点検及び評価に関すること。	1	○令和2年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。
(6) 教科用図書の採択に関すること。	1	○令和3～6年度使用の中学校教科用図書を採択した。
(7) その他	7	○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会教育長職務代理者の指定について ○コロナウイルス緊急事態宣言に伴う学校の休校について ○学校の再開について ○「御前崎市立・学校組合立学校教育職員の勤務時間の上限に関する方針」の承認について ○令和2年度準要保護児童生徒の認定について ○令和3年度準要保護児童生徒の認定について について審議した。

V 総合評価

常葉大学 堀井啓幸

総論：

コロナ禍であっても、多様、多量な教育事務を着実に管理・執行されてきたことを高く評価したい。

「Ⅲ重点取組」と「Ⅳ御前崎市教育委員会の自己点検・評価」との関わりが明確になり、「第2次御前崎市総合計画 2016～2025」との関わりで、ちょうど折り返し地点にある本年度の教育委員会の成果と課題が明らかになってきたように思われる。とりわけ、「5-1-2 地域ぐるみで取り組む青少年健全育成の推進」における社会教育課の役割が明示されて、学社協働、地域ぐるみで取り組む御前崎市教育委員会の姿が組織として見えやすくなった。With コロナ時代にあっても「スクラム御前崎」の機軸でぶれることなく、今後も基本計画に基づきながら計画的に管理・執行されることを期待したい。

各論：

1 スクラム型コミュニティ・スクール

御前崎市の「スクラム型コミュニティ・スクール」は、ある意味で静岡型コミュニティ・スクールの先陣を走ってきており、学校、家庭、地域を結び付ける形で様々な教育的成果をあげてきた。さらにいえば、多様な職務権限を持ち、多くの教育事務を管理・執行する教育委員会において、御前崎市の場合は「スクラム御前崎」という機軸があって、御前崎市の教育行政や学校教育が「スクラム」という言葉でお互い共通理解がしやすい土壌を作っている。その点、「Ⅲ重点取組」における「スクラム運営協議会」の位置づけが限定的になっていることが気になった。コロナ禍でも浜岡中学校では「地域担任」制度を起点にして地域との関わりを積極的に進めているようだ。「Ⅲ重点取組」における「スクラム運営協議会（学校運営協議会）」の位置づけや人的配置を再考することで、「スクラム御前崎」の良さを生かしたこれからの御前崎市における学校教育の在り方を継続して検討されたい。

そのためには、「スクラム御前崎」の基盤を作っていると思われる学校運営協議会の現状と課題の見直し（運営協議会メンバーの世代交代に伴う人材養成、コーディネーター養成、ボランティア拡大に向けての対策、スクラムカレンダーの作成終了に伴う個々の学校における情報提供の在り方の検討等）だけでなく、総合教育会議の意義の周知、防災教育の推進（昨年同様、執行度もその他の評価も低い）など多面的に継続して行いたい。

2 「ギガスクール」構想と青少年の健全育成（スクラム・スクール・プラン）

「情報モラル学習の推進」については「重点取組」に組み込まれているものの、情報教育の推進は今後の課題といえる。「学校の ICT 環境の向上」は、コロナ禍において喫緊の課題であり、新学習指導要領への対応、また、教職員への働き方改革とも密接に関わっている。

「ギガスクール」構想（小中学生に一人一台パソコンやタブレット端末を配置する国の構想）に関わって、御前崎市は静岡県内でも積極的な人的物的支援を行っている自治体といえるが、それらをソフト面において今後どのように生かしていくかが問われる。「ギガスクール」の視点は、学校教育領域のタスクとしてだけでなく、ネット犯罪や「ネット依存の対応」、「ゲーム障害」など青少年指導のタスクとしても学社協働して取り組みをさらに進めていくことも大切である。その点、「スクラム御前崎」の内実に関わる教育委員会における各担当課のさらなるスクラムの在り方も問われている。

平成30年度から始まっている「だれでも食堂もぐもぐ」の開催は、平成26年8月の閣議決定「子どもの貧困対策に対する大綱」における学校をプラットフォームとして捉える施策と密接に関わっており、御前崎市でも家庭教育支援の重要な柱となってきた。「アプローチ・スタートアップブック」などの活用によって「縦のつながり」を強化するだけでなく、プラットフォームとしての学校を中心とした「横のつながり」をさらに強化することで、「子どもの育ち」の多様性を尊重した「スクラム・スクール・プラン」でありたい。

3 地域の活力となる学びの循環へ御前崎市の「強み」を生かす

令和3年3月6日に新校舎の落成式が行われた浜岡中学校は、建築計画委員会発足時に市長が「御前崎市は原発だけではなく、教育の御前崎としても全国から視察に来るような街にしたい」と話された言葉が印象的なシンボリックな学校である。原発に関わるエネルギー教育、日本建築学会賞を受賞し、現在も市民の生涯学習の起点となっている市立図書館（アスパル）、読書活動の充実発展のための図書館司書（3人）の配置。また、新学校給食センター（令和3年9月供用開始）においては、地産地消の一層の推進が目指されているなど御前崎市が誇れる教育資源は少なからずある。今後、御前崎市の教育行政は、こうした様々な「強み」がどこまで教職員や保護者、地域住民に認識され、活用されていくのかが問われよう。

現状において、御前崎市では充実した様々な人的配置がなされているが、教職員の能力向上とどのように関わっているのか。「市独自の学力調査」結果も踏まえて、何を課題として今後どのように改善していくか。多様な教職員研修会、プログラムを組んでおり、それぞれの分野で第一人者と思われる方々が講師として継続して関わっているが、そうした研修会の成果が研修を受講した個人や個々の学校・園だけでなく、御前崎市の人づくりにどこまで生かされているか少し見えにくいところもある（「執行度」が重要な自己点検・評価の指標になっているが、何をもちいて執行度〇%といえるのか、現在の自己点検・評価ではそのエビデンスが分かりにくいように思われるので数値とともに質的評価を加えるなど工夫の余地もある）。

「スクラム御前崎」では、幼保小中高、そして、大学進学や社会に出ていく御前崎市の子ども達の育成をどうするかが問われている。どんな人づくりをしていくのか、教職員、教育行政に携わる方々の共通理解がどれだけ進んでいるか。「第2次御前崎市総合計画2016～2025」の折り返し地点にある本年度の教育委員会の成果と課題を基点に再検討されたい。